

教科(科目)	美術 I	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年 (必履修)
使用教科書	光村図書出版株式会社「美1」				
副教材等	なし				

1 学習目標

美術の幅広い創作活動を通して美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- ①生徒の実態に見合った自作教材を開発し、基礎的・基本的技能の定着を図る。
- ②作品の展示・発表を行うことによって、自分及び他の生徒の作品を客観的に評価する能力を伸ばす。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	ガイダンス ・学習内容に関心を持たせ、学習の目安と抱負を持たせる。	・鉛筆 ・カッター	・鉛筆、カッターなどの基本的な使い方を学ぶ。	2	・安全に道具を使いこなせることができる。
5	鉛筆デッサン ・デッサン力を養う ・観察力、集中力を高める。	・鉛筆 ・カッター ・練り消し ・画用紙	・鉛筆の持ち方、線の引き方、濃淡のつけ方を練習する。 ・モチーフの形のとり方を学ぶ。 ・遠近法を学ぶ。	5	・正確な描写力を身につけることができる。 ・部分に応じ鉛筆の使い方を変えることができる。
6	色について ・色の性質などの基本について理解させる。 ・絵の具の特性について理解させる。	・ポスターカラー ・絵筆 ・鉛筆 ・画用紙	・色相環図などを描きながら色相、明度、彩度を学習する。 ・混色で様々な色を再現する。	5	・色彩についての理解ができる。
7	絵画 (静物) ・テーブル上のくだものやビンなど配置し美しい構図を考えポスターカラーで描く。 ・物の立体感、量感、質感、それらを取り巻く空間をしっかりと把握し、構図を考える力を身につける。	・ポスターカラー ・木製パネル ・鉛筆 ・練り消し ・画用紙 ・水張りテープ	・スケッチブックにエスキースを描く ・構図が決まったらパネルに描き、彩色していく。 ・イメージに合った配色を考える。 ・色を重ねたり、削ったり、こすったりして色に深みを出す工夫をする。	1 2	・絵の具を使いモチーフの質感なども表現することができる。 ・テーブルにしっかりと置かれている感じが陰影を付けて表現できる。
9	木彫 ・ペン皿の制作 ・ノミなどを使い安全な刃物の使い方を学ぶ。 ・木の材質を知り、木の持つ魅力を実感する。	・木材 ・彫刻刀 ・軍手 ・鉋 ・着色剤	・一枚の板からペン皿を作る。 ・木彫の道具を使い制作する。 ・着色に時間をかけ、仕上げる。	1 2	・丁寧に作品を仕上げる事ができる。 ・着色をすることで作品の出来映えを上げることができる。
10	形と構成 ・形や色が与えるイメージや画面を構成するための配置・配色を学習する。	・ポスターカラー ・鉛筆 ・画用紙	・形や配色から受けるイメージをパネル等で学習する。 ・自分のイメージを色面構成する。	8	・お互いの作品の良さを理解することができる。

1	自分自身の名前をモチーフにした平面構成 ・自身の名前を題材にし、文字の大きさ、重なり、配置、配色などを考え画面を構成する力を養う。	・ポスターカラー ・鉛筆 ・画用紙	・色の重なりや文字の重なりを考える。 ・構図、色彩を考え、構想を練る。 ・実際に本画に入る。 ・ポスターカラーで彩色する。	18	
3	鑑賞 ・生徒同士作品を鑑賞しお互いの良さを見つける ・芸術作品を取り上げ作品のすばらしさに気づかせる。		・鑑賞カードを作り生徒同士の作品をいくつか選び提出する。	2	

計64時間 (55分 授業)

4 課題・提出物等

・各単元の作品や課題を提出期限までに提出する。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	(思考・表現・技能)	(知識・理解)
・美術に対する関心を深め、表現方法を工夫し取り組んでいる。	・道具などの使用方法を理解し、その場その場に応じた技能を選択し、的確に表現することができる。	表現する内容を効果的に伝える方法を理解することができる。

以上の観点を踏まえ、

・授業への取り組みや態度、作品を丁寧に仕上げているか、独自の表現が生かされているかなど総合的に判断し評価します。

6 担当者からの一言

感受性が豊かなこの時期に、自然の中から美しいものを感じ取れる感性を養う事により、よりよい生活の充実感を育てたい。また、美術館などにも足を運び、芸術の深さを感じ取れる機会を多く持ち、先人の素晴らしさを知り自らの創造活動の原点を築いて欲しい。